

やがて巡<sup>めぐ</sup>り巡<sup>めぐ</sup>る季節<sup>きせつ</sup>に

僕<sup>ぼく</sup>らは息<sup>いき</sup>をする

おも<sup>おも</sup>で<sup>で</sup>思い出になるその時<sup>とき</sup>まで

ずっと忘<sup>わす</sup>れないで

ひとり<sup>ひとり</sup>一人<sup>ひとり</sup>ぼっち膝<sup>ひざ</sup>を抱<sup>かか</sup>えて

み<sup>み</sup>あ<sup>あ</sup>見<sup>み</sup>上げたんだあの日<sup>ひ</sup>

おも<sup>おも</sup>思<sup>おも</sup>ってたより晴<sup>は</sup>れた空<sup>そら</sup>と

あなたがそこにいた

み<sup>み</sup>見<sup>み</sup>えてるもの全<sup>すべ</sup>て胸<sup>むね</sup>に焼<sup>や</sup>き付<sup>つ</sup>けたんだ

いつか来<sup>く</sup>るさよならの時<sup>とき</sup>のため

だけ<sup>いま</sup>ど今<sup>き</sup>は気<sup>き</sup>づかぬふりをして

ぼく<sup>ぼく</sup>わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>僕<sup>ぼく</sup>は笑<sup>わら</sup>うあな<sup>いま</sup>たと今<sup>いま</sup>

かな<sup>かな</sup>悲<sup>かな</sup>しみ喜<sup>よろこ</sup>び心<sup>しんぞう</sup>臓<sup>ぞう</sup>の鼓<sup>こ</sup>動<sup>どう</sup>

つた<sup>つた</sup>伝<sup>うご</sup>って動<sup>うご</sup>かすんだ僕<sup>ぼく</sup>とい<sup>いのち</sup>う命<sup>いのち</sup>

おも<sup>おも</sup>想<sup>かんじょう</sup>いや感<sup>かんじょう</sup>情<sup>か</sup>掛<sup>か</sup>け値<sup>ね</sup>なしの愛<sup>あい</sup>を

あなたがくれたから

すす<sup>すす</sup>進<sup>すす</sup>むよ見<sup>み</sup>ててくれる?

まよ<sup>まよ</sup>な<sup>な</sup>か<sup>か</sup>真<sup>ま</sup>夜<sup>よ</sup>中<sup>な</sup>の雨<sup>あめ</sup>が降<sup>ふ</sup>り止<sup>や</sup>めば

ぼく<sup>ぼく</sup>僕<sup>ぼく</sup>はき<sup>とお</sup>っと遠<sup>とお</sup>く

しんばい<sup>しんばい</sup>心<sup>しん</sup>配<sup>ばい</sup>しないで同<sup>おな</sup>じ空<sup>そら</sup>の

した ぼく  
下に僕はいるよ

み すべ まも  
見えてるもの全て 守ろうとするほどに

やさ きず  
あなたは優しさで傷つくから

こた さが うしな  
答えを探すたび失うんだ

だいじ お  
大事なもの こぼれ落ちていく

いくせん とし こ で あ  
幾千の時を超えいつかまた出会う

つな て かんしよく おも だ  
繋いだ手の感 触を思い出して

よる ぼく あした ねが  
あの夜に僕らは明日を願った

かな ねが  
叶わぬ願いだとわかっていたとしても

とき くも とし かぜ かたち か  
時に雲 時に風 形を変えながら

もと ぼく む  
あなたの元に ほら 僕は向かうよ

ぼく こえ とど  
そして僕の声があなたに届くなら

こた  
なんてあなたは答えるのだろう

ありがとう ごめんね

ひどいやつだ バカだな

あい な わら  
愛してる 泣いて笑うのは

たぶんぼく  
多分僕かも

き  
聞こえる？

かな よろこ しんぞう こどう  
悲しみ 喜び 心臓の鼓動

つた うご ぼく いのち  
伝って動かすんだ 僕という命

おも かんじょう か ね あい  
想いや感 情 掛け値なしの愛を

あなたはくれたんだ

<sup>き</sup><sup>せ</sup><sup>き</sup>  
奇跡のよう<sup>ひ</sup><sup>び</sup>な日々を

いつでもここにいるよ